

# ハウスをフル活用するパプリカの養液栽培

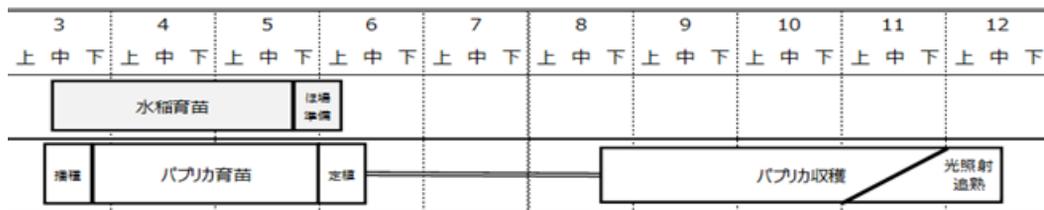
## 技術の概要

水稻育苗後のハウスをそのままの状態でも簡易なシステムを使ってパプリカの夏秋どり栽培をおこなう栽培方法です。

### 1 育苗ハウスをそのままフル活用

水稻育苗後のハウスを耕起することなく、簡易な養液栽培システムを設置するだけで、パプリカを栽培できます。

翌年はシステムを撤去するだけでそのまま水稻の育苗ができます。



### 2 誰でもできる養液栽培

角材とロックウールスラブを組み合わせた簡易な隔離床養液栽培システムにより、設置と撤去が容易な栽培システムです。



### 3 技術を組合せ収量アップ

接ぎ木栽培により草勢を維持し収量の向上(5~10%)が期待できるとともに、収穫終了直前にはグリーンのパプリカを照射追熟により着色し、無駄なく出荷(5~15%)できます。



## 期待される効果

- ロックウールを利用した簡易な隔離床栽培により水稻育苗後のハウスをそのまま有効に活用できます。
- パプリカは輸入取扱い量が多く、市場からは国産品が望まれており、高単価が期待できます(H28 AM規格 600~700円/kg)。
- H28年10aあたりの実績では、収量4.5t、売上げ220万円、経費が115万円であることから105万円の収益が見込まれます。

### 【お問い合わせ先】

岩手県農業研究センター技術部野菜花き研究室 〒024-0003 北上市成田20-1 TEL0197-68-4420

当該技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。